

# 成功支えた4,400人超す ボランティア

## 3年ぶりの北海道マラソン開催

北海道マラソン2022が8月28日（日）に行われました。3年ぶりの開催です。その復活レースを、4,400人を超すボランティアがしっかりと支えました。

東京2020オリンピックのマラソン・競歩競技を札幌に移すと発表されたのが2019年10月。準備と撤収の時期が重なる北海道マラソン2020は中止となりました。さらに新型コロナウイルス感染症の世界的まん延でオリンピックが異例の1年延期され、北海道マラソンは2021も開催ができませんでした。

3年ぶりの大会は東京オリンピック2020のマラソンコースを取り込んでゴールを札幌駅前通りの大通に設定したオリンピック・レガシー大会に。フルマラソンの出場者は過去最大の21,000人を超えました。そのビックイベントをしっかりと支えたのがボランティアのみなさんです。

その顔ぶれは前日、前々日の会場受付242人、給水（大通スタートとフィニッシュ、5km以降、約2・5kmごとプラスαの沿道16ポイント）を担った3,633人、沿道のコース整理411人、フィニッシュ地点のシャワー、アイシング、完走タオルとメダル、手荷物置き場案内担当の150人でした。

200万都市札幌で行う大規模市民マラソンには、主要道路の交通を止めるための綿密な規制、多くのランナーの健康を守る給水、救護などの安全対策が欠かせません。それを支えているのがスポーツボランティアの活動です。

ところが2年間の空白では、これまでに大会を支えてくれた団体や個人のボランティアが、高齢化やコロナ感染への警戒感などから参加できない状況も生まれまし



3年ぶりに開催された北海道マラソン。ゴールが五輪と同じ大通4丁目となった

た。一方で北海道マラソンの再出発に協力を呼び掛けたところ、応えてくれた団体、個人が給水では51グループ、1,300人にも上り、札幌を激走するランナーをしっかりとサポートすることができました。

国内外の多くの大会が2020年以降、中止を余儀なくされてきたなか、「オリンピックのレガシーコースを満喫できました」「給水などで多くのボランティア、市民の温かな応援に力をもらいました」など出場ランナーからは、感謝の声がたくさん寄せられました。

しかし大会がすべてうまく終わられたわけではありません。配送段階のエラーで何か所かの給水地点に正しく資機材が納品できず、ボランティア、そしてランナーのみなさんにご迷惑をかけたケースが起きました。

またコース路上に紙コップのポイ捨てをなくすよう呼びかける「北海道マラソン給水宣言」を発してからすでに何年もたっていますが、まだ成果は満足いく状態ではありません。コース上のゴミ散乱は、ランナーが足を滑らす危険性があり、またその清掃で時間がかかることで、交通規制解除の遅れにもつながります。こうした課題は2023大会で解消できるよう準備を進めていきます。

## 大会ホームページにボランティアページ開設

2022大会を終えて1か月少しが過ぎた10月初旬に、北海道マラソン2022公式ホームページに「Volunteer2022ボランティアの記録」<https://www.hokkaido-marathon.com/volunteer-memories/>を開設しました。

大会前にボランティアに参加してくれた団体へ、ボランティア当日の記念写真や感想を送ってください、と呼び掛けたところ、15団体から返答があり、それを思い出アルバムとして掲載しました。北海道マラソンのホームページにボランティアに焦点を絞ったコーナーが出来るのは初めてです。

このボランティアページは2023大会以降のホームページで更新をし、また北海道マラソンに参加するボ



大会ホームページに開設されたボランティアページ

ランティアに関するさまざまな情報を発信する場所として育てていきたいと思っています。ボランティアの皆さんのご愛読とご協力をお願いします。